

令和4年度分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和4年度分について、輸出額は「自動車の部分品」などが減少したものの、「自動車」、「金属加工機械」、「半導体等製造装置」などが増加したことから対前年度比10.7%の増加となった。また、輸入額は「液化天然ガス」、「原粗油」、「衣類及び同附属品」などが増加したことから、同31.3%の増加となった。その結果、差引額は6兆6,980億円（同5.8%の減少）となった。

注）本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年度比による
また、★印は名古屋港において全ての年度を通じて過去最高を示す（1979年度以降のデータを基礎として比較）

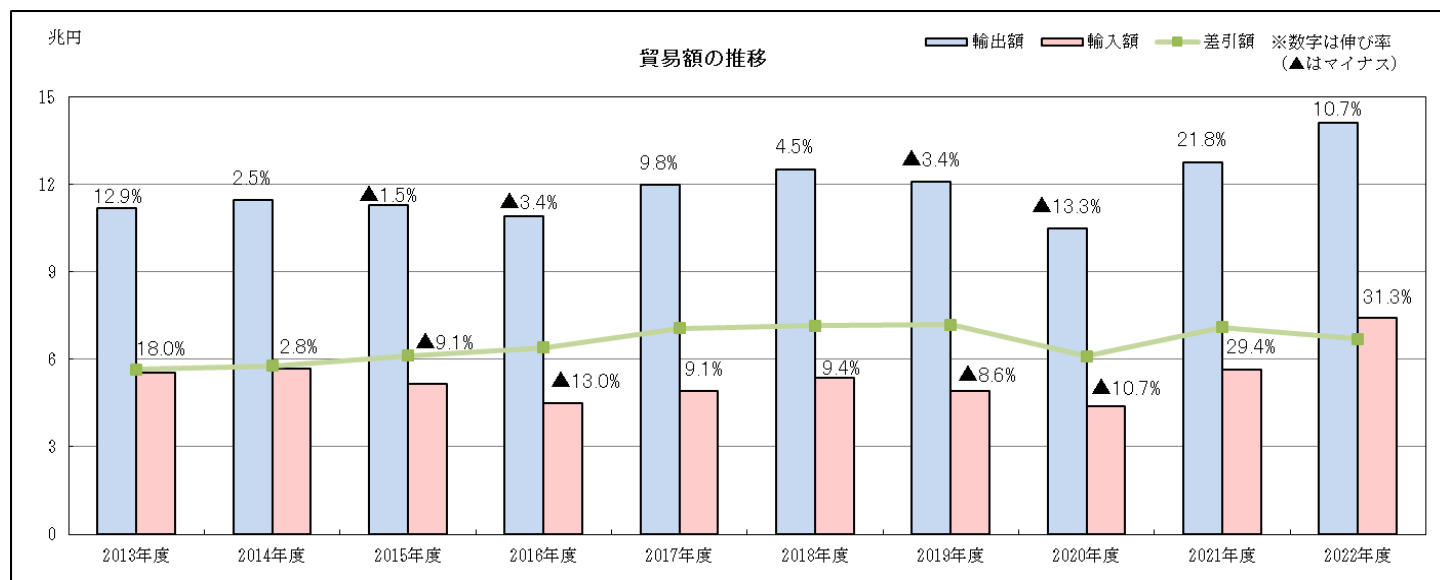
○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	★ 14兆1,368億円	+10.7%	★ 7兆4,388億円	+31.3%	6兆6,980億円	▲5.8%
	2年連続の増加		2年連続の増加		2年ぶりの減少	
管内（名港シェア）	21兆8,763億円（64.6%）		14兆4,739億円（51.4%）		7兆4,024億円（—）	
全国（名港シェア）	99兆2,265億円（14.2%）		120兆9,550億円（6.2%）		▲21兆7,285億円（—）	

注）名古屋港における差引額は、平成10年度以降 25年連続 全国港別（空港を含む）第1位

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出増加	(1) 自動車	3兆6,612億円	+26.9%	+6.1	2年連続の増加
	(2) 金属加工機械	★ 5,431億円	+23.0%	+0.8	2年連続の増加
	(3) 半導体等製造装置	★ 2,364億円	+39.3%	+0.5	3年連続の増加
減少	(1) 自動車の部分品	2兆0,272億円	▲4.5%	▲0.8	2年ぶりの減少
輸入増加	(1) 液化天然ガス	7,762億円	+77.7%	+6.0	2年連続の増加
	(2) 原粗油	5,408億円	+153.6%	+5.8	2年連続の増加
	(3) 衣類及び同附属品	★ 4,175億円	+33.6%	+1.9	2年連続の増加



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の置き場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。